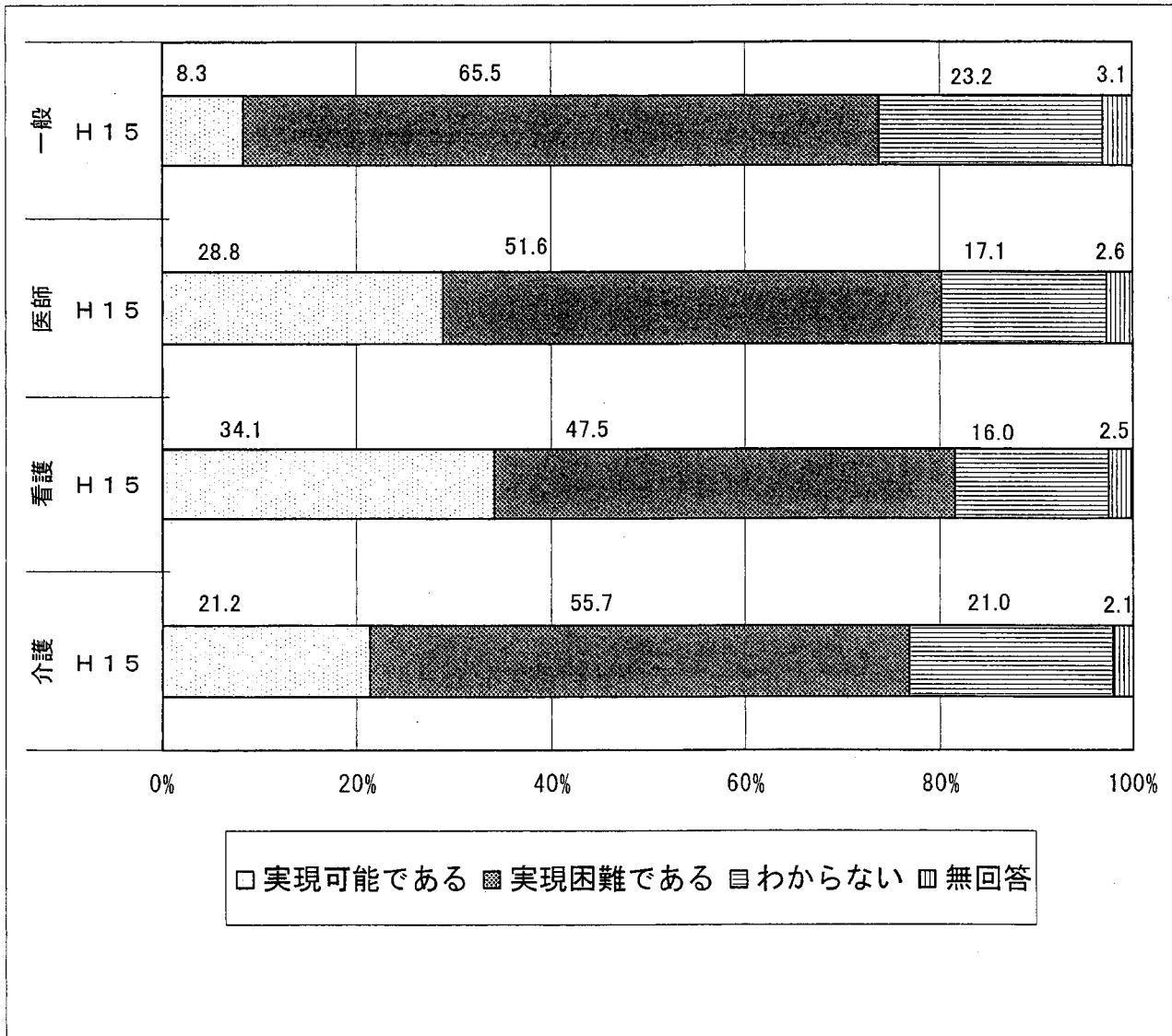


自宅で最期まで療養することについて、多くの者が「実現困難である」と回答しており（般 66%, 医 52%, 看 48%, 介 56%）、「実現可能」と回答した者は比較的少ない（般 8%, 医 29%, 看 34%, 介 21%）。

問 自宅で最期まで療養できるとお考えになりますか。（○は1つ）

問の番号 一般4-1, 2 医師8-1, 2 看護8-1, 2 介護8-1, 2

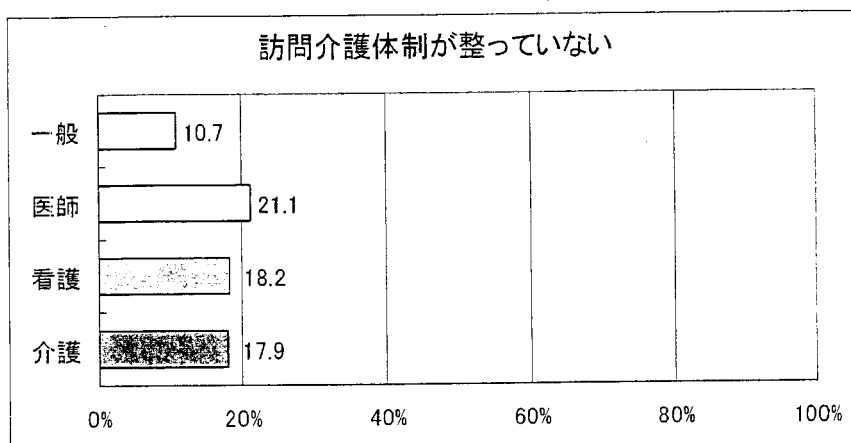
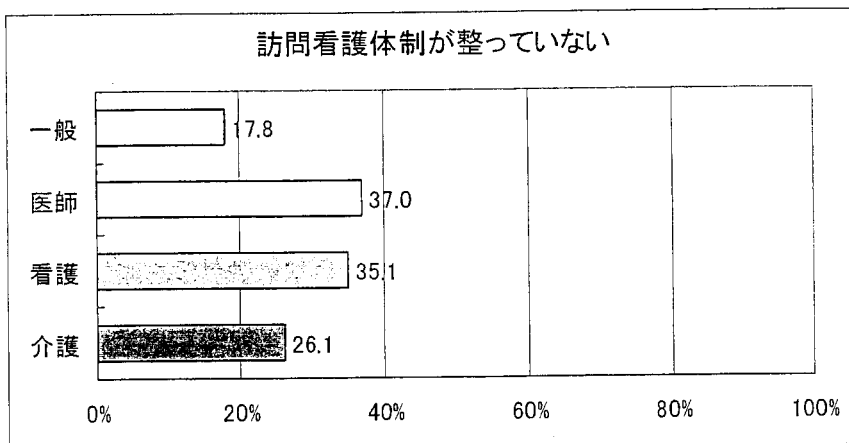
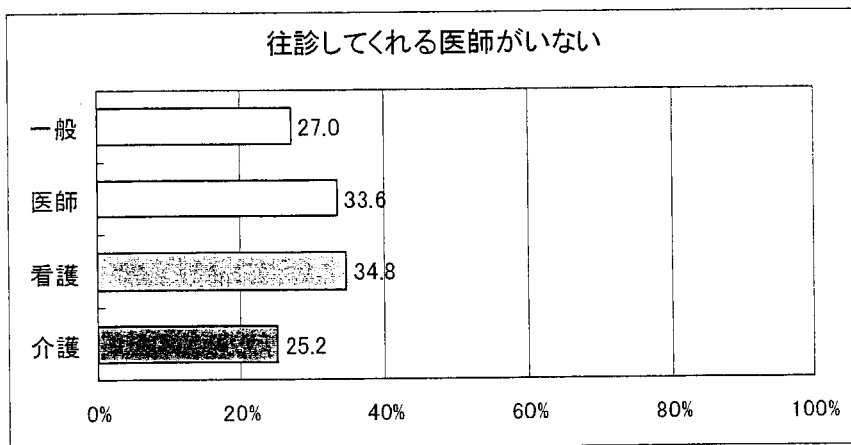


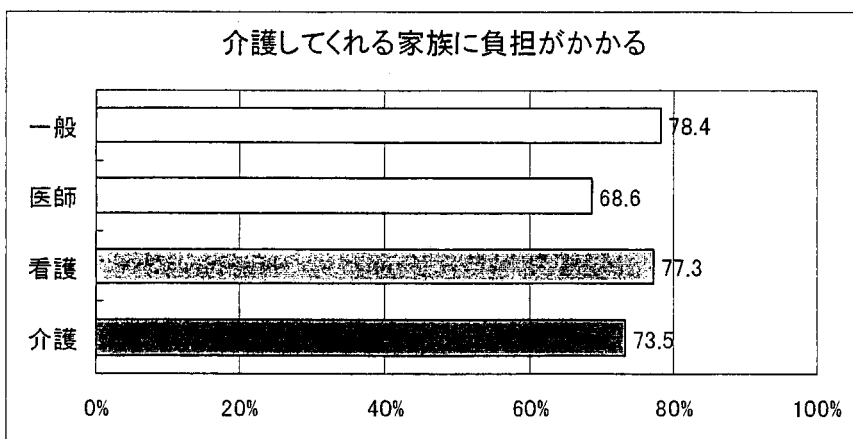
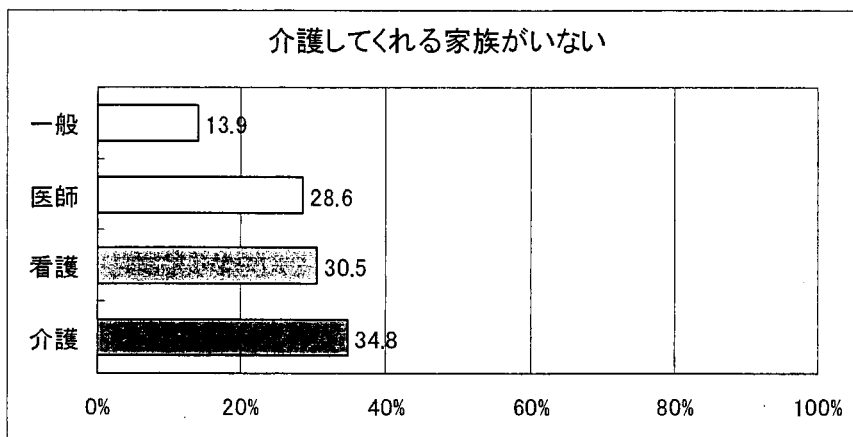
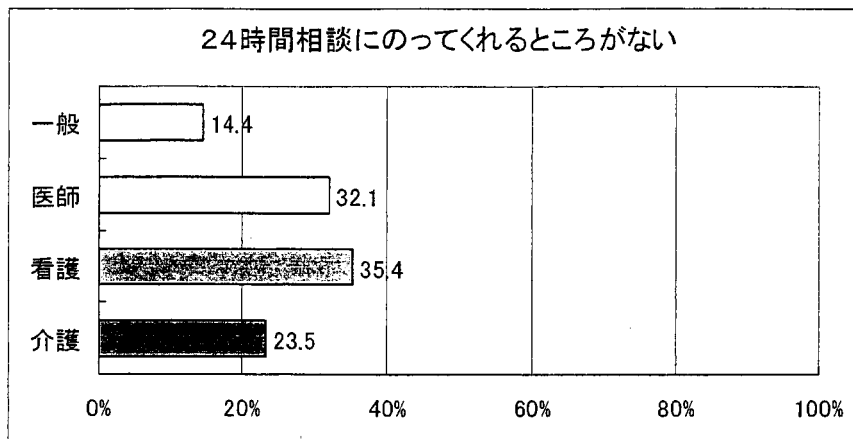
自宅で最期まで療養するのは「実現困難である」と回答した具体的な理由としては、「介護してくれる家族に負担がかかる」（般 78%、医 69%、看 77%、介 74%）が最も多く、次いで「病状が急変したときに不安である」（般 57%、医 54%、看 53%、介 65%）が多い。

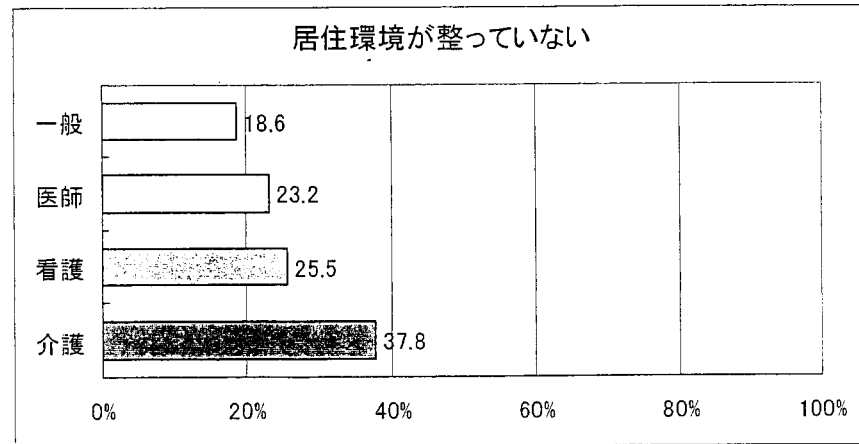
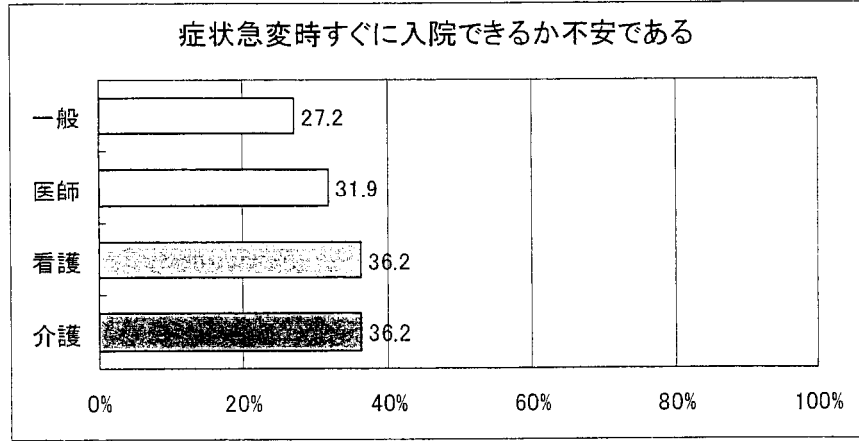
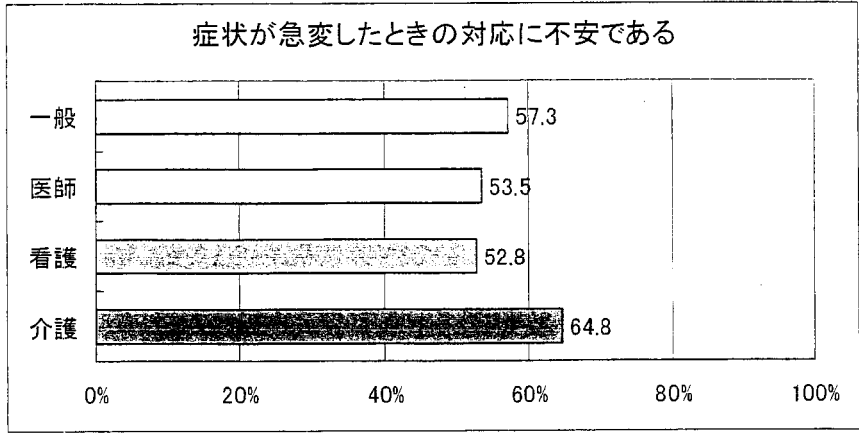
（「自宅で最期まで療養することは実現困難である」と回答した者に対する質問）

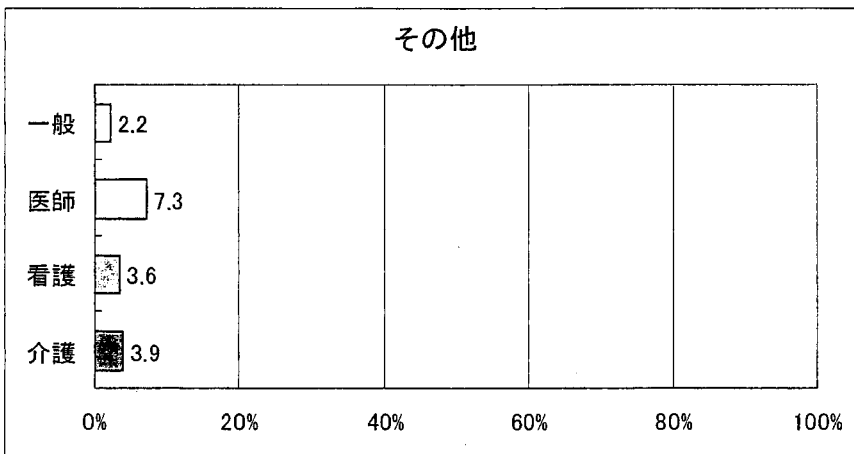
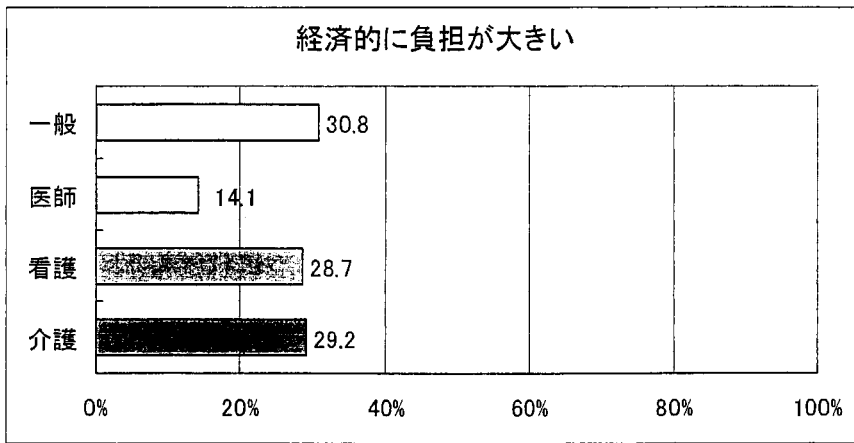
問 実現できないとお考えになる具体的な理由はどんなことでしょうか。お考えに近いものをお選びください。（〇はいくつでも）

問の番号 一般 4-2 補問 医師 8-2 補問 看護 8-2 補問 介護 8-2 補問





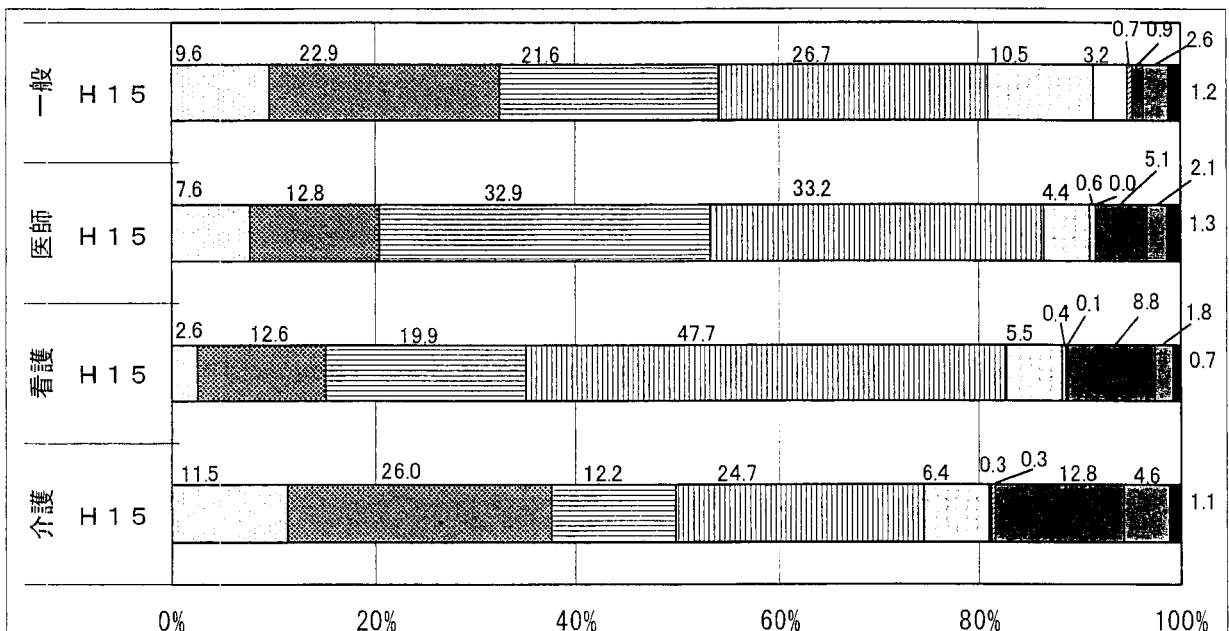




自分の患者（または家族）が痛みを伴う末期状態（死期が6ヶ月程度よりも短い期間）の患者になった場合に薦める療養の場所については、おおむね「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟へ入院させたい」（般 27%、医 33%、看 48%、介 25%）が最も多く、「自宅で療養して、必要になればそれまでの医療機関へ入院させたい」（般 22%、医 33%、看 20%、介 12%）、「なるべく早く緩和ケア病棟へ入院させたい」（般 23%、医 13%、看 13%、介 26%）が多くなっている。

問 あなたが担当している患者・入所者（あなたの家族）が痛みを伴い、しかも治る見込みがなく死期が迫っている（6ヶ月程度あるいはそれより短い期間を想定）場合、療養生活はどこを薦めますか。（○は1つ）

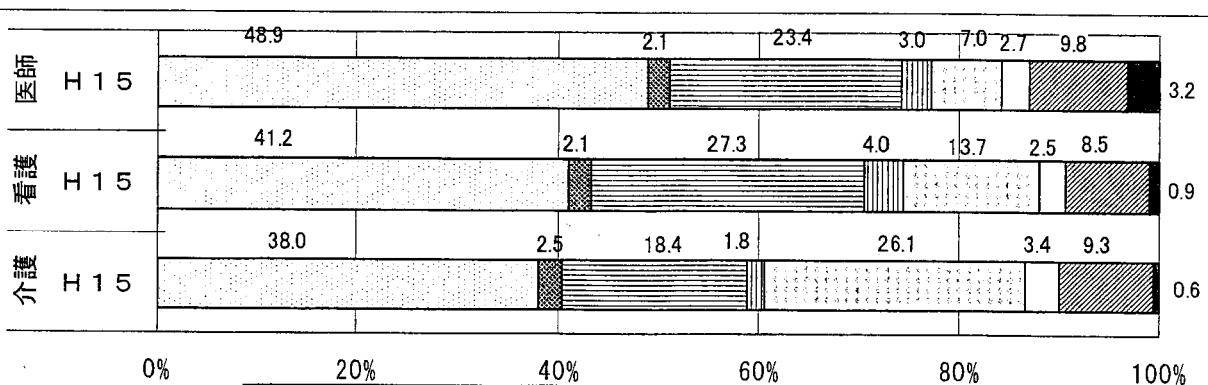
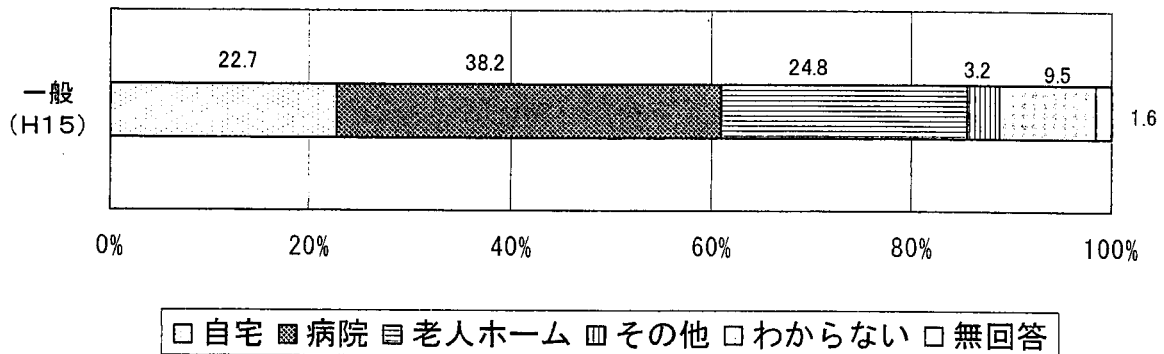
問の番号 一般6 医師8-1 看護8-1 介護8-1



- なるべく早く今まで通った（今、入っている）医療機関に入院させたい
- なるべく早く緩和ケア病棟（終末期における症状を和らげることを目的とした病棟）に入院させたい
- 自宅で療養して、必要になればそれまでの医療機関に入院させたい
- 自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院させたい
- 自宅で最後まで療養させたい
- 専門的医療機関（がんセンターなど）で積極的に治療をさせたい
- 老人ホームに入所させたい
- その他
- わからない
- 無回答

自分が高齢となって、脳血管障害や痴呆等によって日常生活が困難となり、さらに、治る見込みのない疾患に侵された場合、一般国民は、病院、次いで老人ホーム、自宅で療養することを希望している（各々38%、25%、23%）。また、医師は、自宅、次いで介護療養型医療施設又は長期療養を目的とした病院で療養することを希望しており（各々49%、23%）、看護職員も自宅、次いで介護療養型医療施設又は長期療養を目的とした病院で療養することを希望している（各々41%、27%）。介護施設職員は自宅、次いで介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）で療養することを希望している（各々38%、26%）

問 あなた自身が高齢となり、脳血管障害や痴呆等によって日常生活が困難となり、さらに、治る見込みのない疾病に侵されたと診断された場合、どこで最期まで療養したいですか。（○は1つ）
 問の番号 一般9 医師12 看護12 介護12

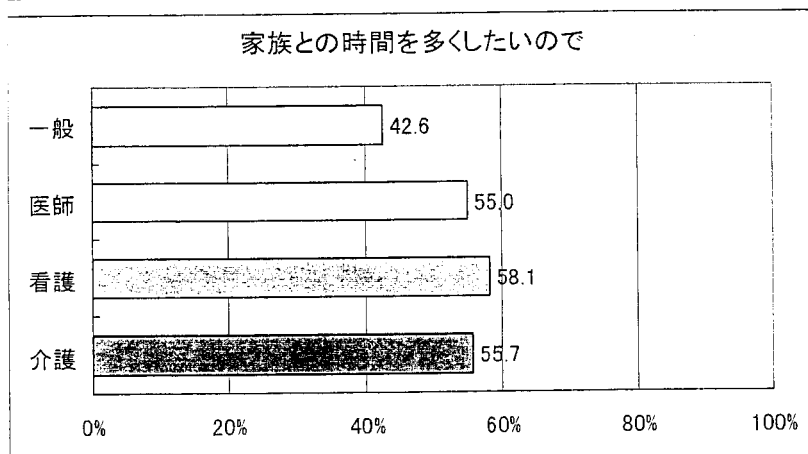
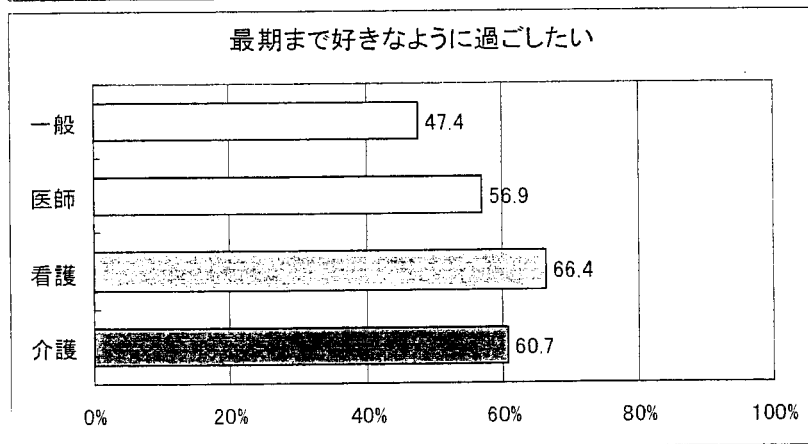
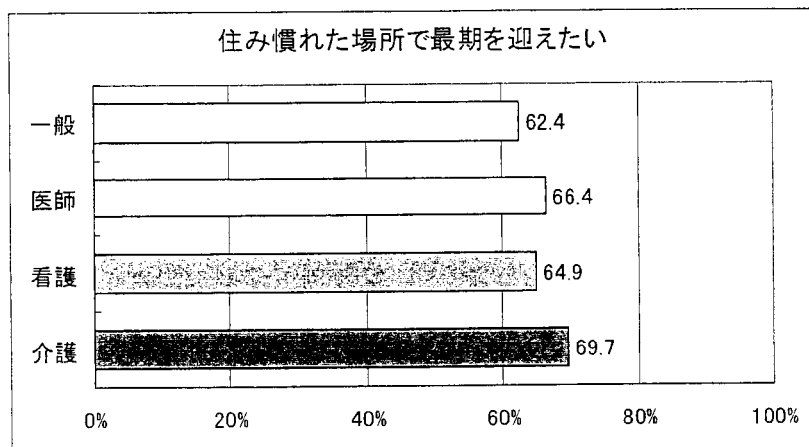


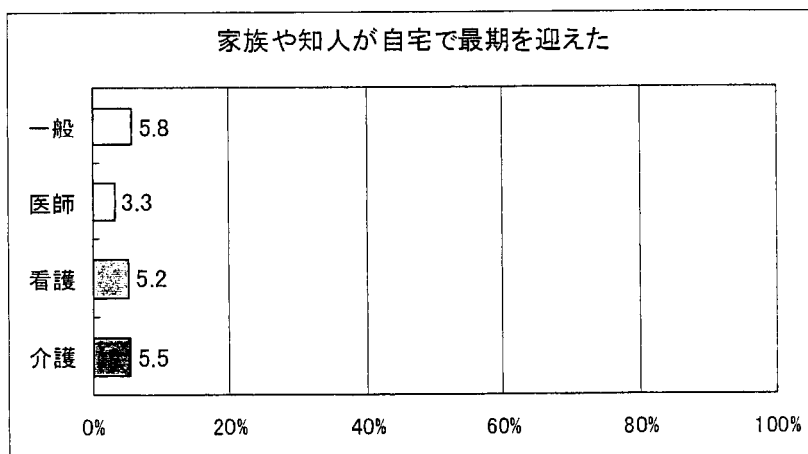
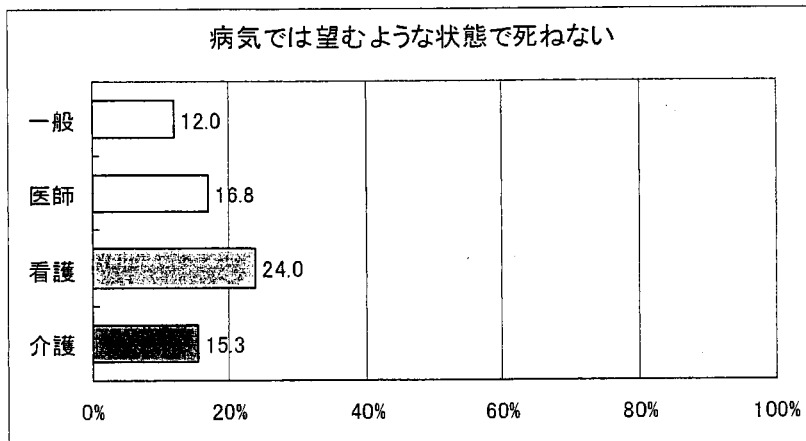
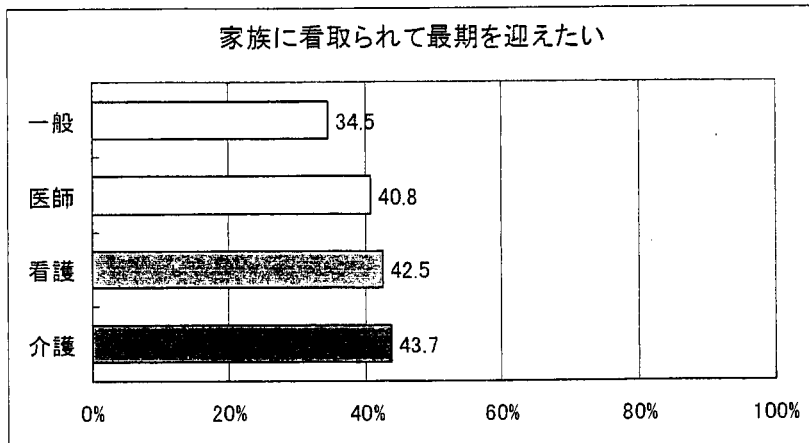
- 自宅
- 一般の急性期病院
- ▨ 介護療養型医療施設、又は長期療養を目的とした病院
- ▩ 介護老人保健施設
- ▧ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
- その他
- ▨ わからない
- 無回答

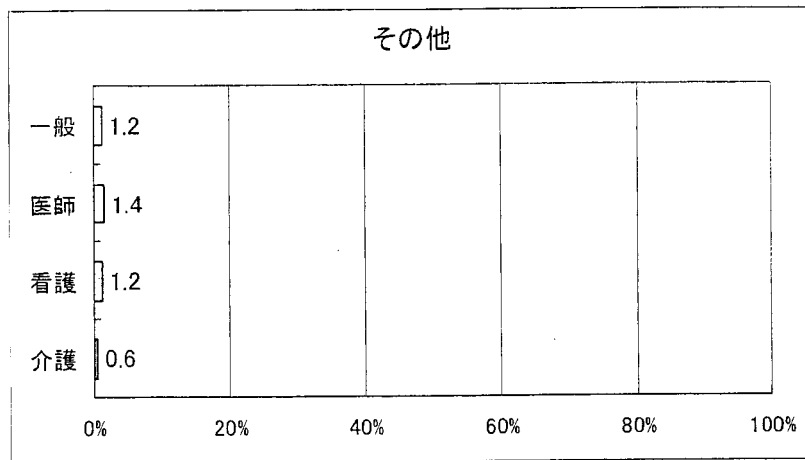
高齢になった場合の終末期を自宅で療養したいと回答した者は、その理由として「住み慣れた場所で最期を迎えたい」（般 62%、医 66%、看 65%、介 70%）、「最期まで好きなように過ごしたい」（般 47%、医 57%、看 66%、介 61%）、「家族との時間を多くしたい」（般 43%、医 55%、看 58%、介 56%）をあげる者が多い。

（自分が高齢となって治る見込みのない疾病に侵された場合、自宅で最期まで療養したいと回答した者に対する質問）

問 なぜ、自宅で最期まで療養したいと思いますか。（○はいくつでも）
 問の番号 一般 9 補問 1 医師 1 2 補問 1 看護 1 2 補問 1 介護 1 2 補問 1







高齢になった場合の終末期を自宅以外で療養したいと回答した理由としては、「自宅では家族の介護などの負担が大きいため」が最も多く（一般84%）、次いで「自宅では緊急時に家族へ迷惑をかけるかもしれないから」（一般46%）が多い。

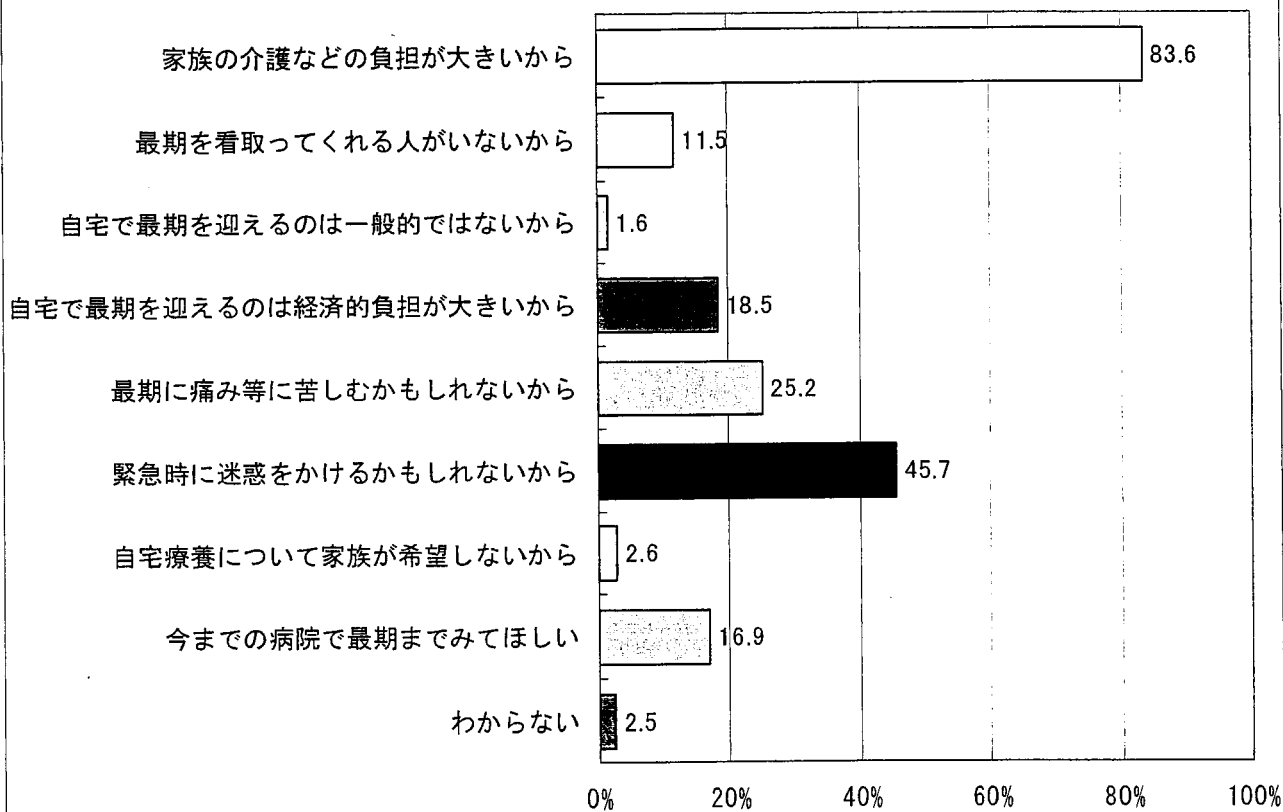
（自宅以外の場所で最期まで療養したいと回答した者に対する質問）

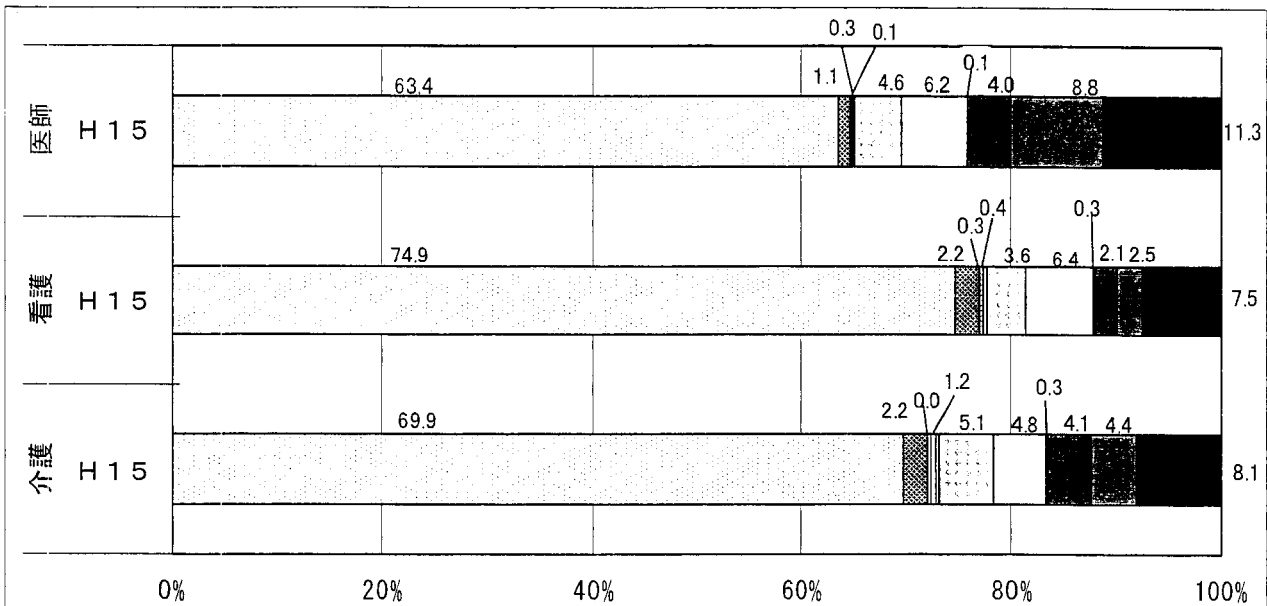
問 あなたはなぜ、自宅以外の場所で最期まで療養したいと思ったのですか。

（○はいくつでも／一般）（○は1つ／医師・看護・介護）

問の番号 一般9 補問2 医師1 2 補問2 看護1 2 補問2 介護1 2 補問2

【H15】

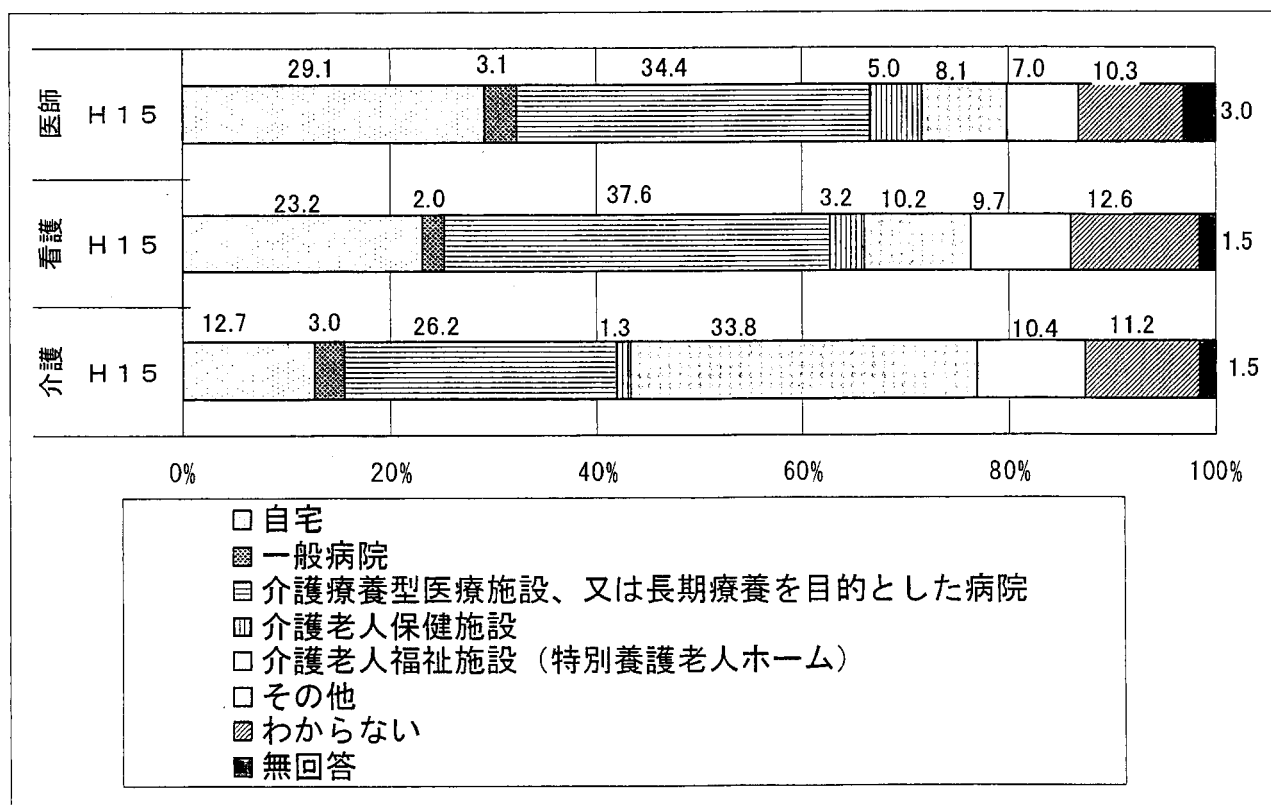
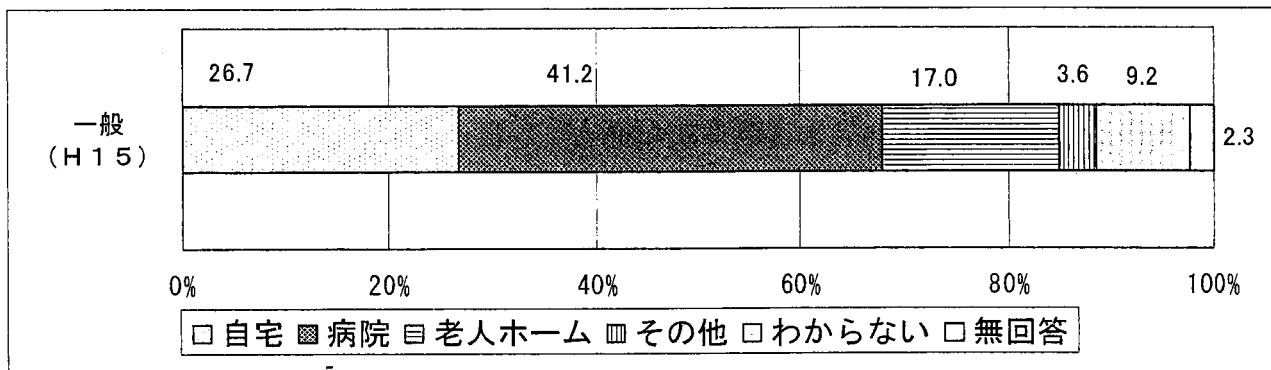




- 自宅では家族の介護などの負担が大きいから
- 自宅では、かかりつけ医など最期を看取ってくれる人がいないため
- 自宅では、最期を迎えるのは、一般的ではないため
- 自宅では、最期を迎えるのは、経済的に負担が大きいから
- 自宅では、最期に痛み等に苦しむかもしれないから
- 自宅では、緊急時に家族へ迷惑をかけるかもしれないから
- 自宅での療養について、家族が希望しないから
- それまでかかっていた病院（施設）の医師、看護師、介護職員などのもとで最期までみてほしいから
- わからない
- 無回答

自分の患者（または家族）が高齢になって、脳血管障害や痴呆等によって日常生活が困難となり、さらに治る見込みのない状態になった場合の療養の場所としては、一般国民は、病院、次いで自宅、老人ホームを希望している（各々41%、27%、17%）。また、医師は介護療養型医療施設又は長期療養を目的とした病院、次いで、自宅で療養することを希望しており（各々34%、29%）、看護職員も介護療養型医療施設又は長期療養を目的とした病院、次いで、自宅で療養することを希望している（各々38%、23%）。介護施設職員は介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、次いで、介護療養型医療施設又は長期療養を目的とした病院で療養することを希望している（各々34%、26%）。

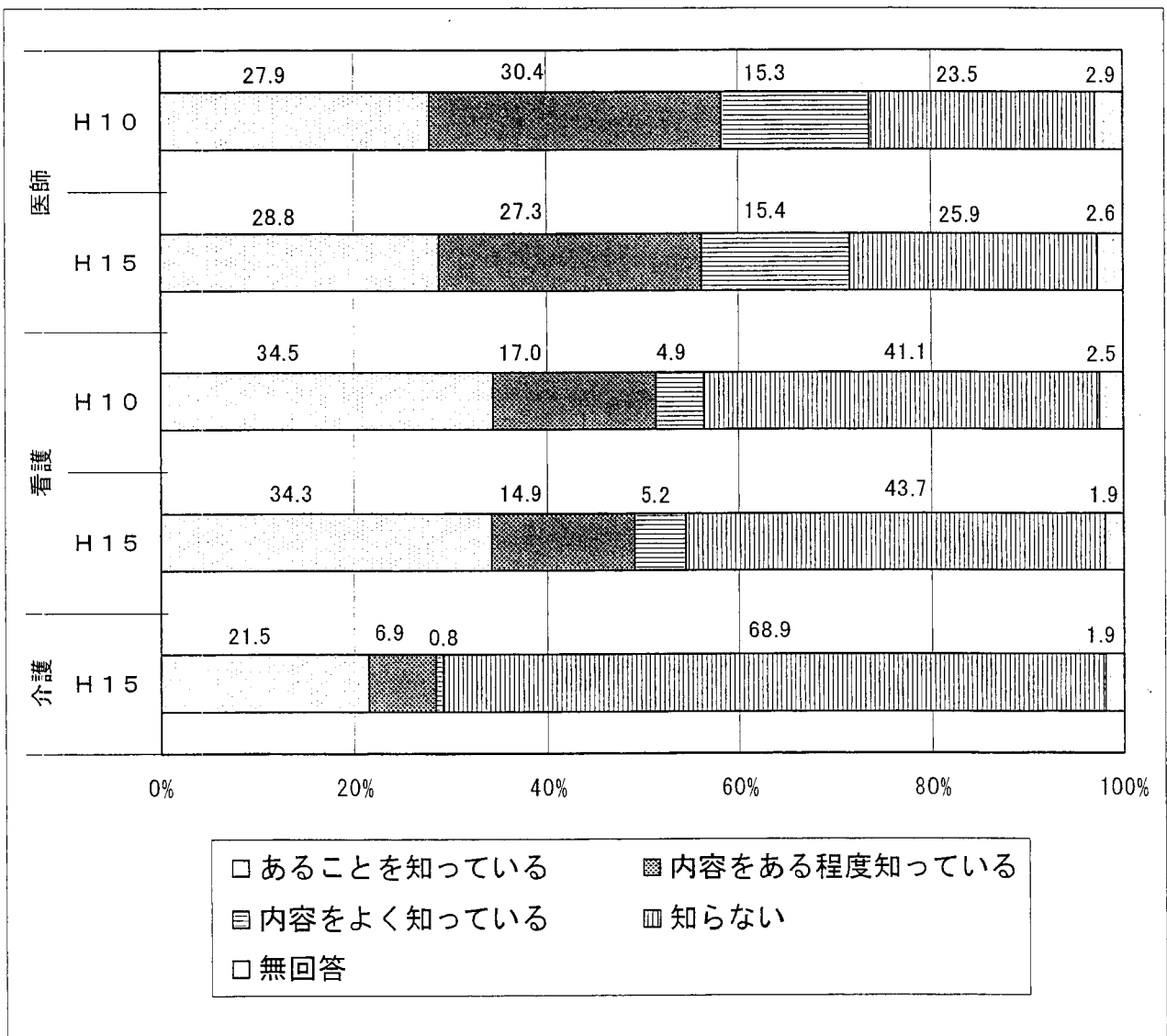
問 あなたの患者・入所者（家族）が高齢となり、脳血管障害や痴呆等によって日常生活が困難となり、さらに、治る見込みのない状態になった場合、どこで最期まで療養したいですか。（○は1つ） 問の番号 一般10 医師13 看護13 介護13



<(9) 癌疼痛治療法とその説明>

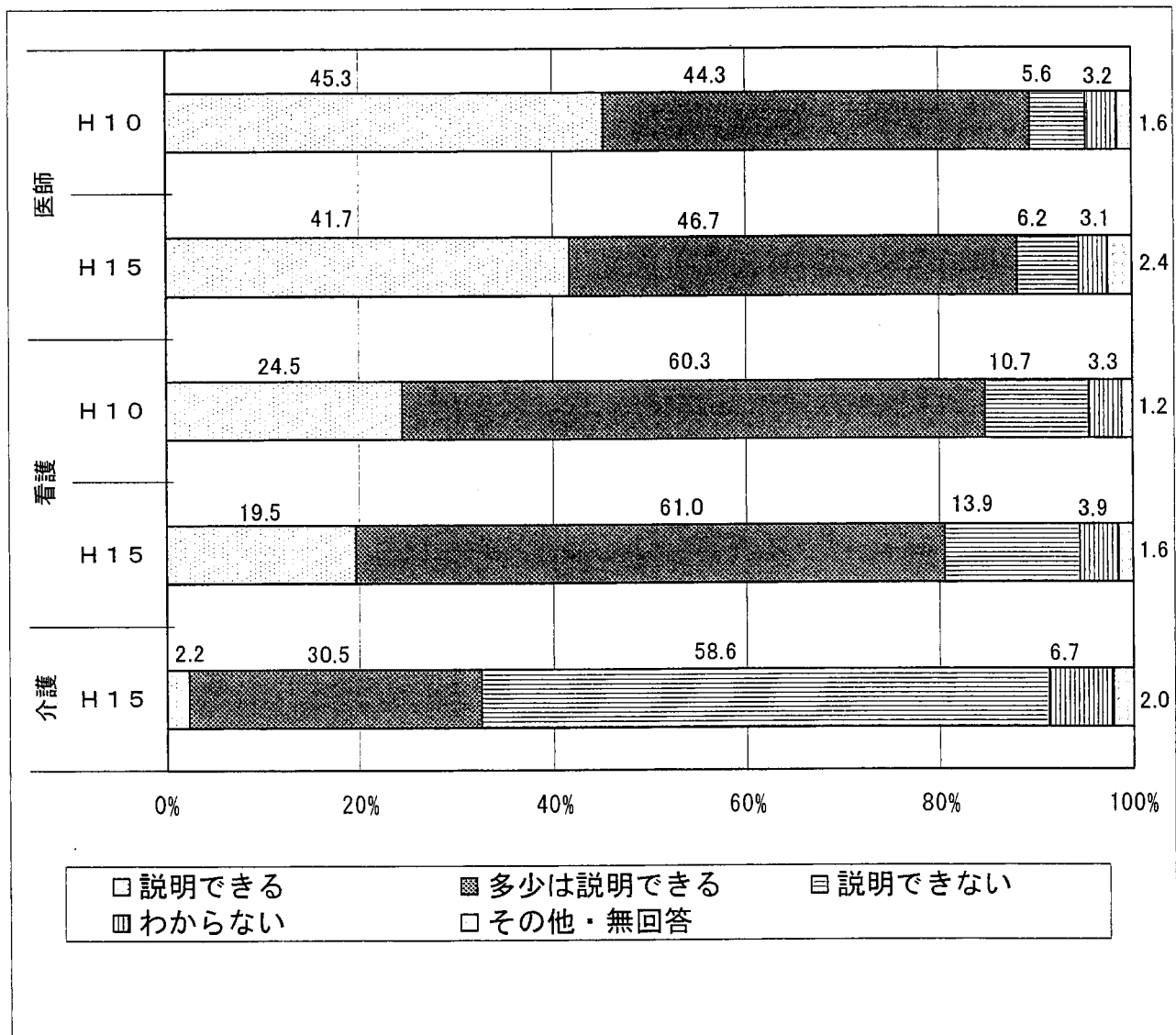
「WHO方式癌疼痛治療法」について「内容をよく知っている」「内容をある程度知っている」医師、看護職員は、前回調査時点と比べて減少しており（医 43%（46%）、看 20%（22%）、介 8%）、介護施設職員では、「（あることも）知らない」者が69%を占める。

あなたは世界保健機関（WHO）が作成した「WHO方式癌疼痛治療法」をご存じですか。（○は1つ）
 問の番号 医師 9-1 看護 9-1 介護 9-1



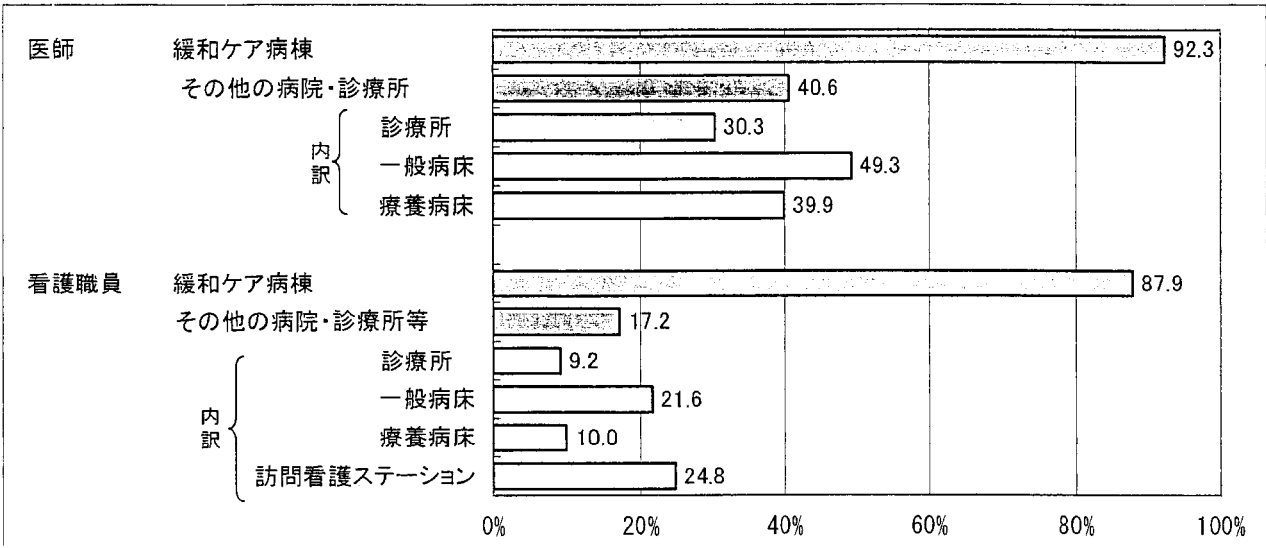
モルヒネの使用に当たって、有効性と副作用について患者にわかりやすく具体的に「説明できる」と回答した医師、看護職員は減少しており（医 42%（45%）、看 20%（25%）、介 2%）、介護施設職員では 59%が説明できないと回答している。

問 あなたは、モルヒネの使用にあたって、有効性と副作用について、患者にわかりやすく具体的に説明することができますか。お考えに近いものをお選びください。
 (○は1つ) 問の番号 医師 9-2 看護 9-2 介護 9-2

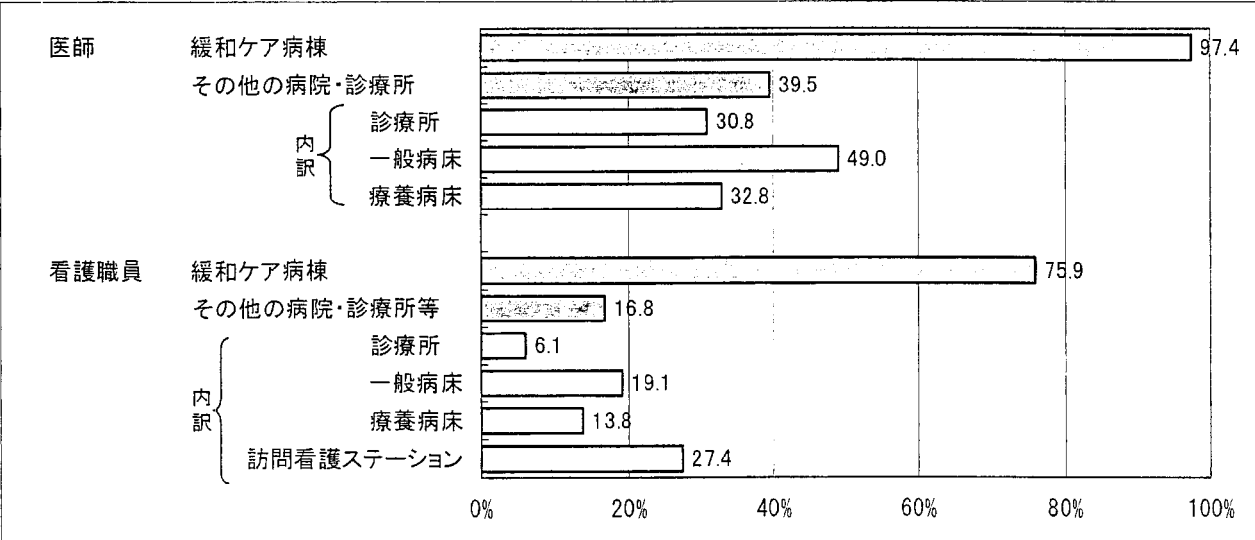


緩和ケア病棟においては、「WHO方式癌疼痛治療法」について、「内容をよく知っている」「内容をある程度知っている」医師、看護職員の割合（医 92%、看 88%）は、その他の病院・診療所等（医 41%、看 17%）に比べて多く、また、モルヒネの有効性と副作用について患者に分かりやすく具体的に「説明できる」医師、看護職員の割合（医 97%、看 76%）についても、その他の病院・診療所等（医 40%、看 17%）に比べて多くなっている。

「WHO方式癌疼痛治療法」について、「内容をよく知っている」「内容をある程度知っている」医師、看護職員の割合



モルヒネの有効性と副作用について患者に分かりやすく具体的に「説明できる」医師、看護職員の割合



注1) 「一般病床」には緩和ケア病棟が除かれている。「療養病床」には介護療養型医療施設が含まれている。
 注2) 本調査は、平成15年2～3月に実施した調査であるため、「一般病床」「療養病床」には現行医療法の「一般病床」「療養病床」だけでなく、当時の医療法の「その他の病床（結核病床、精神病床及び感染症病床以外の病床）」も含まれている。

<(10) 終末期医療体制の充実>

終末期医療の普及のために充実していくべき点について、医師では、「在宅終末期医療が行える体制づくり」をあげる者が最も多く、次いで「患者、家族への相談体制の充実」、「医師・看護師等医療従事者や、介護施設職員に対する、卒前・卒後教育や障害研修の充実」をあげる者が多い（各々63%（48%）、59%（54%）、54%（63%））。看護職員では「在宅終末期医療が行える体制づくり」をあげる者が最も多く、次いで「患者、家族への相談体制の充実」、「緩和ケア病棟の設置と拡充」をあげるものが多い（各々76%（57%）、70%（69%）、59%（65%））。介護施設職員では「入所者、家族への相談体制の充実」、次いで「在宅終末期医療が行える体制づくり」、「医師・看護師等医療従事者や、介護施設職員に対する、卒前・卒後教育や生涯研修の充実」をあげる者が多くなっている（各々73%、69%、53%）。

問 あなたは、終末期医療の普及に関し、どのようなことを充実していくべきだとお考えですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。（○はいくつでも）

問の番号 医師18 看護18 介護18

